※令和４年度以降入学生用

学校番号	107

令和８年度　音楽科

教科	音楽	科目	演奏研究（声楽）	単位数	１単位	年次	１年次
使用教科書	高校生の音楽１（教育芸術社）						
副教材等	進度に合わせて随時教材プリントの配布、書籍を購入します。						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・この授業は１年生の声楽専攻の生徒を対象として授業を行います。
・教科書と筆記用具、プリントを綴じるためのファイルを必ず持参してください。
・声楽専攻実技や合唱、音楽理論、音楽史などで学んだことを基礎として将来プロの音楽家として必要とされる音楽的総合力を身につけます。

【音楽的総合力を身につけるために授業で学ぶこと（１年次）】

① 時代や地域による表現上の特徴や作曲家の表現上の特徴を踏まえて楽曲を分析する事ができ、調べたことを言葉でまとめる力や、プログラムノートや楽曲についての分析レポートを自分で作成します。
② 歌う楽器としての身体について知識を深め、歌詞のディクション（イタリア語）を身につけること＝自分一人で楽譜に書いてある歌詞や記号について解釈して譜読みができるようにします。
③ 演奏会を企画・実演する力＝演奏会の成り立ちを学び、舞台での所作を身につけ、年度末には、学んだことを発表する場として企画・運営・実践、演奏発表など自ら計画した演奏会を仲間とともに実施します。

２　学習の到達目標

音楽作品の演奏や鑑賞の学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・・能力を次の通り育成することを目指す。
【知識及び技能】演奏における客観性と多様性について理解を深めるとともに、理解したことを生かした演奏をするために必要な技能を身に付けるようにする。
【思考力・判断力・表現力等】音楽の様式をふまえた演奏に関する思考力、判断力、表現力等を育成する。
【学びに向かう力、人間性等】音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりする態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・演奏や鑑賞の学習を通して、楽譜に基づいて演奏者がどのような解釈をしたか、時代や様式及び演奏形態などに即した表現方法や解釈があることについて理解をしている。【知識】 ・自らの演奏を振り返りながら、また楽曲が生まれた時代や地域などによって特徴が異なる音楽の様式を演奏者がどのように表現しているかなど、客観性と多様性を踏まえ、自らも歌唱で表している。【技能】	・時代や地域による表現上の特徴や個々の作曲家の表現上の特徴などを踏まえ、どのように歌うかについて表現意図を持っている。また専門実技で培った知識・技術を生かし、自分や他者の演奏が音楽の様式を踏まえた演奏となっているかどうかについて思考、判断し、表現する一連の過程を位置づけながら、どのように歌うかについて表現意図を持っている。	時代や地域、作曲家、声の表現上の特徴を踏まえて作品を解釈したり、様式等に即した演奏方法を追求することに関心をもち、音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりする態度で主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	題材	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	声楽の演奏形態と求められる「声」の特徴を知る。ステージマナーとボディマッピングによる体の知識を身に付ける	①　春休み中の課題(オペラを1作品鑑賞する)について、時代により様式や演奏形態が多様であることを理解する。 ②　舞台上で求められる所作やマナーについて学び、実践する。 ・Cromebook を使って舞台でのウォーキング、所作をセルフチェックし、自らの所作により聴衆にはどのような印象を与えているのかを相互に観察し考察する。 ・素敵な演奏家になるためには？(グループディスカッションと発表) ③　楽器としての身体を知ろう。歌うために必要な身体についての知識について客観性をもって理解し、実際の歌唱時に生かす。 ④　歌唱時のイタリア語の発音を学ぶ(ディクション)。正しい読み方や発音時の口の中の舌の位置などを知識として学び、そのあと実践し、実際に専攻実技授業で歌っている曲の歌詞を朗読して身に付ける。	a：オペラの名演を鑑賞する学習を通して、楽譜やテキストに基づいて演奏者がどのような解釈をしたか、時代や様式及び演奏形態などに即した表現方法や解釈があることについて理解をしている。【知識】 ・ステージマナーでは、自らの所作を撮影し、録画を見ることで客観的に分析・考察でき、クラシックの音楽様式では演奏者がどのように表現しているかなど理解し、自らもステージで美しい所作で表している【技能】 b:専門実技で培った知識・技術を生かしながら、自分や他者の演奏が音楽の様式を踏まえた演奏となっているかどうかについて、客観的に動画で分析し、ディスカッションすることで思考、判断する。またそれらをステージで表現する一連の過程も含め、どのように歌唱し、演奏するかについて表現意図を持っている。 c：イタリア古典歌曲やオラトリオなどの声の表現上の特徴を踏まえて作品を解釈したり、様式等に即した演奏を追求することに関心をもち、音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりする態度で主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート ペーパー試験 実技試験【ディクション】	アセスメントシート①【動画の比較分析】 アセスメントシート②【他者との比較・分析】 【観察】毎回の授業に向けての準備	ワークシート グループでのディスカッション アセスメントシート②【他者との比較・分析】 ワークシート【歌うための体についての知識】 【観察】毎回の授業に向けての準備

※令和４年度以降入学生用

後期	イタリア語の作品をアンサンブル演奏する	⑤　イタリア語の作品を2重唱で演奏する ・声や音楽を他者と合わせ、お互いが音楽の様式を踏まえた演奏になっているかどうかについて、プロの演奏との動画を比較聴取することで知覚・感受し、ディスカッションしあう。（特に母音と子音の発音のタイミングなど前期で学習した発語法の実践とアーティキュレーションや、語感とフレーズの関係を学ぶ）音楽的な実践演奏への試みを行う。 ⑥　演奏会を企画しよう（学習の応用実践） ・イタリア語の声楽アンサンブル作品を演奏する演奏会の企画を自分たちで企画する。 ・演奏会が成立するために必要な役割を知り、実際に運営する。 ・演奏する曲に関して、プログラムノートとして歴史的背景などをまとめた文章を記載する。 ・プログラミングの意図や解釈などを文章にプログラムを作成する。 ・年度初めに学んだ舞台マナーを実践する。 ・演奏会は記録し、振り返りを行うことで客観的に演奏会の企画・演奏の内容について互いに批評しあい、良い部分を共有する。	a:　イタリア語の２重唱の作品にどのようなものがあるか研究し、楽譜やテキストに基づいて演奏者がどのような解釈をしたか、時代や様式及び演奏形態などに即した表現方法や解釈があることについて理解をしている。【知識】 ・２重唱の稽古では自らの演奏を撮影し、練習の進度ごとに録画を比較聴取することで客観的に自らの演奏を分析・考察することでクラシックの音楽様式で演奏者がどのように表現しているかなど理解し、自らも楽譜に基づいた演奏形態で演奏している【技能】 b:専門実技で培った知識・技術を生かしながら、２重唱を歌唱することに加え、演奏会全体として音楽の様式を踏まえた演奏会となっているかどうかについて思考、判断し、ステージで表現する一連の過程を位置づけながら、どのように演奏会を企画して、プログラミングを工夫し、歌うかについて表現意図を持っている。 c:　イタリア古典歌曲やオラトリオなどの声の表現上の特徴を踏まえて作品を解釈したり、様式等に即した演奏会や演奏法を追求することに関心をもち、音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりする態度で主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	実技テスト レポート【演奏会のプログラミング】 レポート【曲目解説】 実技テスト【公開実技試験：演奏会形式】	アセスメントシート③【稽古内容の見直し、改善、工夫】 プログラムの提出【レポート】 アセスメントシート④まとめ・次への課題と工夫	アセスメントシート③【ポートフォリオ的に自分の練習記録をつけ振り返る。】 【観察】演奏会の裏方の役割を果たしているか アセスメントシート④演奏会へ取り組み

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度
※ 少人数展開授業のため、生徒の実態に合わせて授業の内容や単元の入替や内容を変更することがあります。